

# ダイフクPROFILE 2025

|                     |    |
|---------------------|----|
| 会社概要 .....          | 1  |
| マテリアルハンドリングとは ..... | 2  |
| 社是・経営理念 .....       | 3  |
| 長期ビジョン・中期経営計画 ..... | 4  |
| 6つの事業とダイフクの強み ..... | 8  |
| 主要製品 .....          | 9  |
| 知的財産活動 .....        | 17 |
| 業績推移(連結) .....      | 18 |
| 株式情報 .....          | 23 |
| サステナビリティ .....      | 25 |
| コーポレートガバナンス .....   | 31 |
| 役員一覧 .....          | 34 |
| 沿革 .....            | 38 |
| グローバル展開 .....       | 48 |
| 国内拠点・海外支店 .....     | 49 |
| 海外現地法人 .....        | 50 |
| 情報開示 .....          | 52 |
| 業界情報 .....          | 52 |
| 日に新た館 .....         | 53 |

(注)1 文中の金額：単位未満の端数を切り捨て  
2 文中のパーセンテージ：一部四捨五入し、合計が100%となるよう表記

|         |                                                        |
|---------|--------------------------------------------------------|
| 事業      | マテリアルハンドリングシステムの総合メーカー<br>物流ソリューションの提供など               |
| 商号      | 株式会社ダイフク (Daifuku Co., Ltd.)                           |
| 設立      | 1937年5月20日                                             |
| 資本金     | 318億65百万円(2024年12月31日現在)                               |
| 代表者     | 代表取締役社長 下代 博                                           |
| 従業員数    | 11,042人(グループ計、2024年度末)                                 |
| 本社所在地   | 大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11<br>東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング        |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383)<br>(「JPX日経インデックス400構成銘柄」に選定) |
| 格付      | 発行体格付 A+ [安定的]<br>短期債格付 a-1<br>(株式会社格付投資情報センター (R&I))  |

|           |                              |
|-----------|------------------------------|
| 2024年度業績※ | (2024年4月1日～2024年12月31日)      |
| 連結売上高     | 5,632億28百万円<br>サービス売上高比率 27% |
| 営業利益      | 715億46百万円                    |
| 年間配当金     | 1株当たり55円                     |

※当社は2024年度より、事業年度を「毎年4月1日から翌年3月31日まで」から「毎年1月1日から12月31日まで」に変更しました。詳細は5ページを参照ください。



本社(大阪)



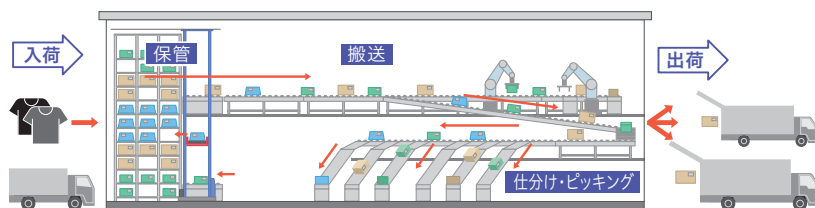
東京本社

マテリアルハンドリング(マテハン)とは、「モノを効率的に保管、搬送、仕分け・ピッキングする」ことです。それらの機能を持つ機械設備と、設備の動きを制御・管理するソフトウェアを組み合わせ、スムーズなモノの流れをつくる仕組み(自動化技術)を「マテハンシステム」と呼びます。

マテハンシステムを活用することで、重労働や反復作業を軽減でき、新たな価値を生み出すことができます。

ダイフクは、保管、搬送、仕分け・ピッキング用の主要製品を自社生産する世界有数のメーカーとして、またシステムインテグレーターとしてお客様の多様なニーズにお応えしています。

## 配送センターのイメージ図



## 古代ギリシャ時代に発祥、機械学のベースとなる



動力を人力に頼っていた時代のマテハン  
(巨石の運搬)

出典: 運搬機械の前身 ダイフク

人類にとって、重い荷物をどう運ぶかは永遠のテーマです。

人間が定住を始めて以降、長く人力や牛馬の力に頼っていましたが、古代ギリシャ時代に数学や力学が盛んになる中で、「重いモノを動かす学問」として機械学が発祥しました。マテハンが、機械工学の源となったわけです。

その後、産業革命を通して蒸気・電気などのエネルギーを得て道具が設備に発展、20世紀後半にはコンピュータと結びついてより進歩しました。

〈社是〉



今日の「われ」は  
昨日の「われ」にあらず  
明日の「われ」は  
今日の「われ」にとどまるべからず

〈経営理念〉

## モノを動かし、心を動かす。

ダイフクは、マテリアルハンドリングを核とする「モノを動かす技術」で、心豊かに生きられる社会を創造します。

私たちは、

- (1) 人と環境への負荷を最小化し、人権の尊重と責任あるものづくりを実践することで、持続可能な社会の実現に貢献します。
- (2) 世界のお客さまと誠実に向き合い、革新的技術と最適最良のソリューションでスマート・ロジスティクスを実現します。
- (3) 多様性を尊重する自由闊達な企業風土のもと、一人ひとりが変革に挑戦します。同時に、経営基盤を強化し透明性の高いグローバル経営を行います。

〈グループ行動規範〉

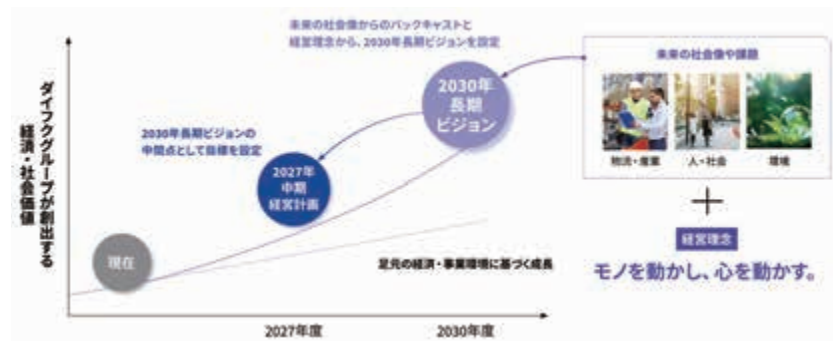
### 基本姿勢

- ・私たちは、法令・社会規範や倫理に照らして、正しく行動します。
- ・私たちは、事業活動のあらゆる局面において、なによりも安全を優先します。
- ・私たちは、「日新」の気持ちを常に忘れず、たゆまぬ挑戦と変革を続けます。

## ▶ 長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」および「2027年中期経営計画」コンセプト

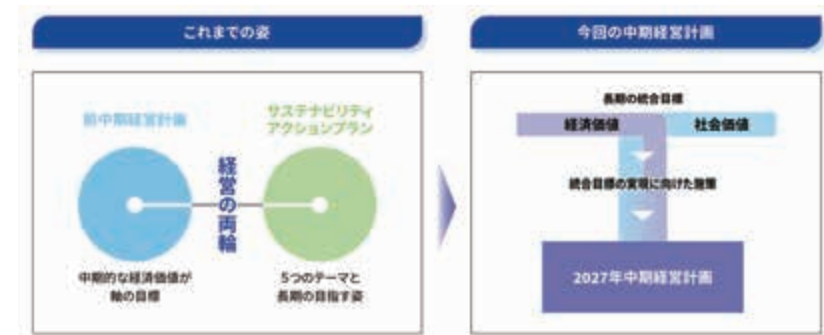
### 短期志向から長期・バックキャスト志向へ

これまでは、足元の経済・事業環境に基づく中期経営計画を策定の上、事業の成長を実現してきました。今回は未来の社会像や課題を想起し、まず2030年のありたい姿を長期ビジョンとして設定した上で、中間点である2027年中期経営計画を策定しました。



### 経済価値と社会価値の両立へ

これまでは経済価値を追求する「中期経営計画」と社会価値を追求する「サステナビリティアクションプラン」を経営の両輪として推進してきました。2027年中期経営計画では、経済価値と社会価値双方の視点を踏まえた統合目標を設定し、統合目標の実現に向けた施策・ロードマップを策定しました。

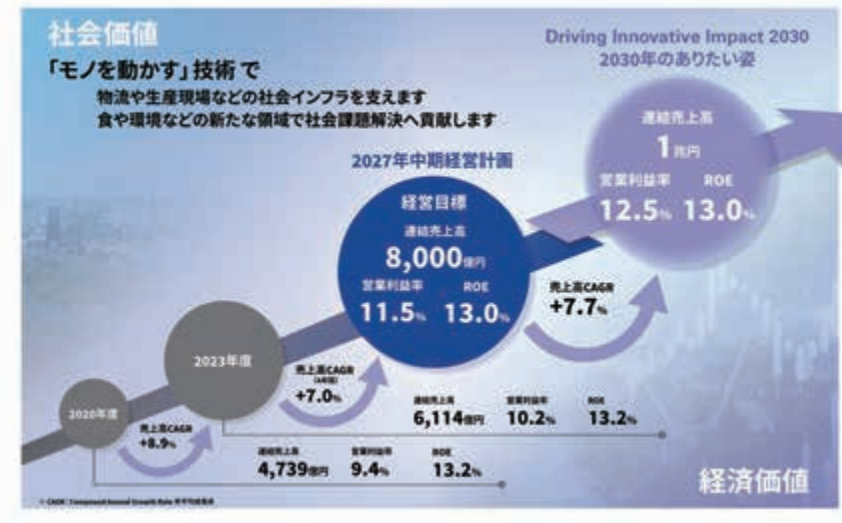


## 長期ビジョン Driving Innovative Impact 2030

『未来を見据えた新たな発想での取り組みを強化し、ステークホルダーへ革新的な影響を生み出すことにより、目指すべき経済・社会価値を実現する』との強い想いを込めています。

### 2027年中期経営計画

### ▶ ありたい姿・目標



### 決算期の変更について

グローバルな事業運営の効率化および経営情報の適時・的確な開示により経営の透明性の向上を図るため、以下のとおり決算期を変更することといたしました。それに伴い、「2027年中期経営計画」は3年9カ月間となります。

| 2024年  |      |      |        | 2025年  |      |      |        |
|--------|------|------|--------|--------|------|------|--------|
| 1～3月   | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月   | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 |
| 2023年度 |      |      |        | 2025年度 |      |      |        |

2024年度(2024年12月期)は決算期変更の経過期間となるため、国内は2024年4月1日から2024年12月31日までの9カ月間、海外は2024年1月1日から2024年12月31日までの12カ月間が事業年度となります。

## 事業戦略

### インフラロジスティクス

事業規模拡大に向けて、完全無人化ソリューションの提供、およびFactory Automation (FA)の新領域開拓、次世代事業への挑戦を続けます。また、先端技術の活用による生産性の革新を図り、海外においては最適生産・最適調達を推進し、収益性を向上します。

- ・事業領域の拡大
- ・グローバルビジネスの収益性向上
- ・顧客からみた品質の追及
- ・先端技術を活用した生産性革新

### クリーンルーム

先端技術を取り入れたシステム開発を行い、市場の拡大、新領域へ挑戦し、半導体工場のさらなる生産効率の向上を実現するため、絶えず進化することを目指します。

- ・顧客の価値創造
- ・既存領域の深化
- ・新領域・次世代事業への挑戦
- ・ビジネスの収益性向上

### オートモーティブ

持続可能なモビリティ社会の実現に向け、次世代自動化システムを提供します。グローバルで変容著しいモビリティ市場において、さまざまなニーズに適應する自動化システムを提供することで、新たな価値を創生します。

- ・グローバルでのさらなる受注拡大
- ・既存事業の進化・新領域への挑戦
- ・成長分野へ経営資源の積極投入

### エアポート

引き続き、北米での事業拡大を行うとともに、同じく需要拡大が見込まれるアジア・欧州地域での事業基盤確立に取り組みます。また、搬送における新技術投入に加えて、空港におけるデジタル分野での需要開拓に取り組みます。

- ・顧客への付加価値の提供
- ・デジタル分野での開発と販売強化
- ・グローバルでの収益性改善

### オートワッシュ

既存事業の強化と新領域への進出で洗浄事業の拡大を目指します。

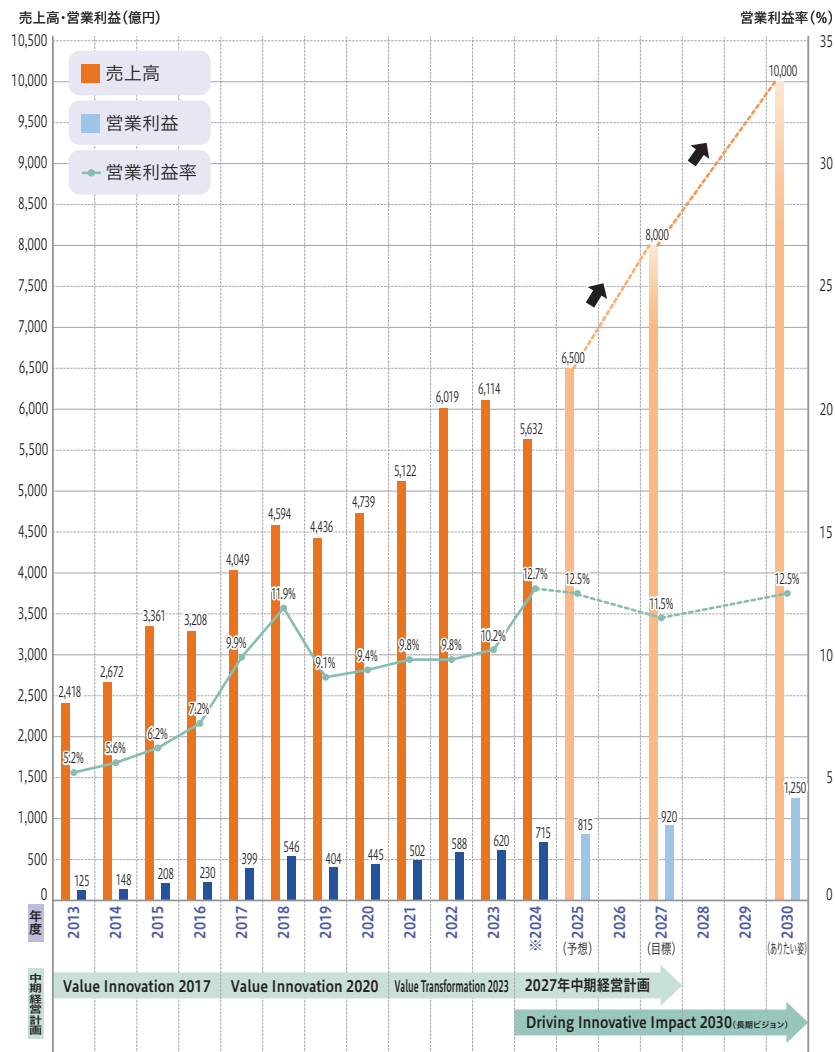
- ・既存事業の進化・新領域への挑戦
- ・ビジネスの収益性向上

### 電子機器

事業規模拡大に向けて、日本・北米・アジアを中心に新領域で事業展開を行い、グローバルでの成長を目指します。

- ・グローバル市場での成長
- ・ビジネスの収益性向上

## 売上高・営業利益の推移



※2024年度は、決算期変更の経過期間となるため、国内は2024年4月1日から2024年12月31日までの9カ月間となります。

長期ビジョン・中期経営計画の詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/ir/policy/plan](http://www.daifuku.com/jp/ir/policy/plan)



**イントラロジスティクス**  
一般製造業・  
流通業向けシステム



**クリーンルーム**  
半導体生産  
ライン向けシステム



**オートモーティブ**  
自動車生産  
ライン向けシステム



**エアポート**  
空港向けシステム



**オートウォッシュ**  
洗車機・関連商品



**電子機器**

## トータルサポート体制

ダイフクの強みは、コンサルティング、システム構築から、製造、工事、長期安定稼働を支えるアフターサービス、リニューアルまで、トータルサポート体制を構築していることです。

マテリアルハンドリングシステムを構成する主要な製品を自社で開発、生産することにより、世界に広がるお客さまにご満足いただける最適・最良のソリューションを提供し、お客さまの競争優位性を押し上げています。



## ▶ イントラロジスティクス

### 一般製造業・流通業向けシステム

eコマース・運輸倉庫などの流通分野と食品・化学・機械などの製造分野向けに事業を展開しています。保管、搬送、仕分け・ピッキング、情報システムなどを組み合わせお客さまのニーズや時代の変化に合わせた最適な物流ソリューションをタイムリーに提供しています。

### 自動倉庫

自動倉庫は、保管する製品のサイズ・重量によってパレット系、ケース系に分かれます。近年はマルチテナントの物流センターや冷凍倉庫・危険物倉庫(防爆)への導入も増加しています。



### 高能力ケース荷揃えシステム

#### 「シャトルラック M」

スタックークレーンに代わり、移載機能付き台車(シャトル)と昇降リフトによって高速で出入庫を行います。荷物の一時保管だけでなく、仕分け、順列出庫などの荷揃えシステムとしても最適です。



## 〔納入事例〕

### 先進技術を活用した最新物流センター

少子高齢化による労働力不足を見据えながら、出荷ミスゼロを目指したセンター。ロボットによる多品種・少量品のピースピッキングを可能にした3次元画像処理技術をはじめ、AIを活用した積付シミュレーションなどの先進技術を多数導入しています。



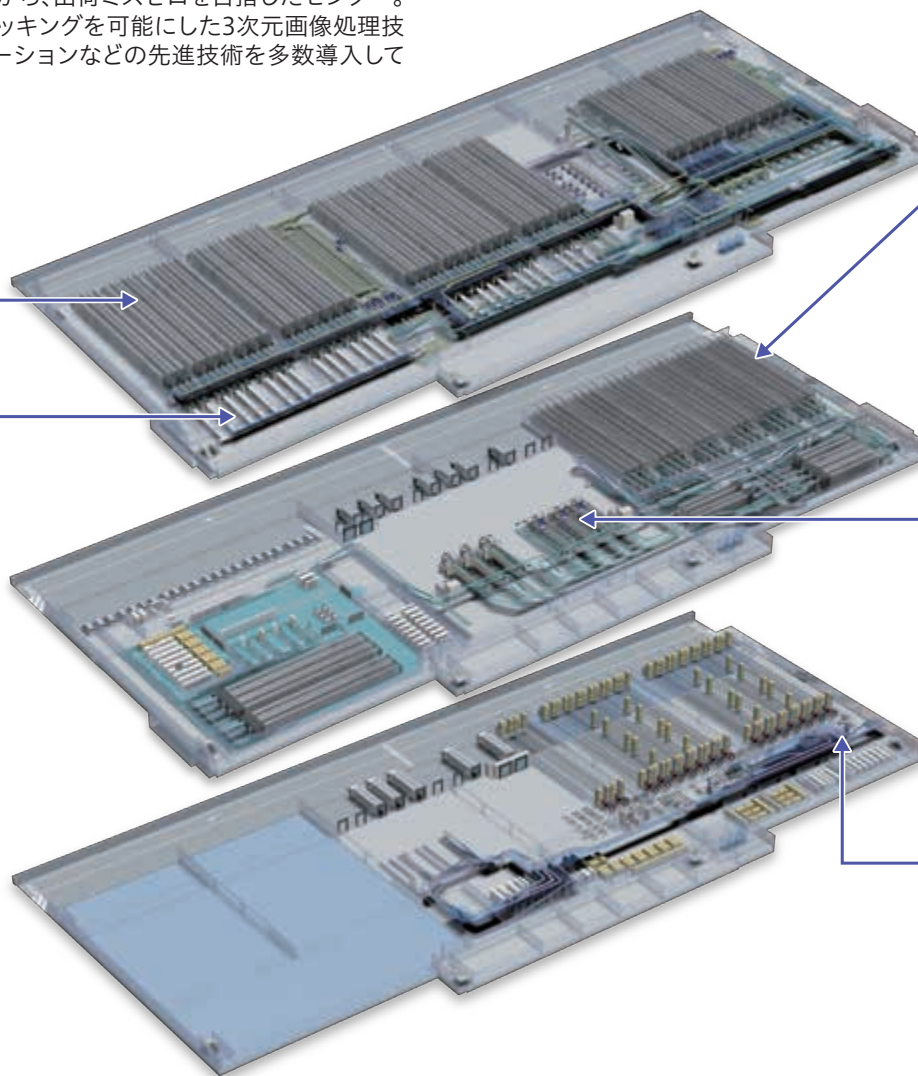
**ピッキング自動倉庫**

ピースピッキングを行うロボットに  
タイムリーに商品を供給



**ピースピッキングロボット**

サイズや重さが異なるピース品を  
正確にピッキング



**ケース自動倉庫**

多種多様なサイズの段ボールケースを保管



**ケース積付ロボット**

さまざまな荷姿のケースをスピーディーに  
積付け



**デパレタイジングロボット**

自動倉庫から出庫されたパレット上の  
段ボールケースをピッキング

### ピース仕分けシステム

#### 「ソーティングトランスファロボット-S」

ピース品の仕分けと搬送を行う搬送ロボット。さまざまな形状の商品を、正確・高速かつ優しく仕分けことができ、荷揃え処理能力を高め、人手不足の課題解決をお手伝いします。



### 高速仕分けシステム

#### 「クロスベルトソーター」

連結された台車がレール上を走行しながら荷物を仕分けるシステム。通販の物流センターや貨物ターミナルなどで、段ボールケース、コンテナ、袋物までさまざまなサイズや形状の荷物に対応可能です。



### ピースピッキングロボット

#### 「XY- ピッキングロボット」

3つの軸によるハンドリングと画像認識システムにより、さまざまな形状の商品が自動ピッキングでき、一般的なアーム型ロボットと比べて省スペースで設置できます。AIによる画像認識技術やハンドリング技術の研究を進め、物流センターの完全自動化の実現を目指します。



#### 物流ソリューションサイト

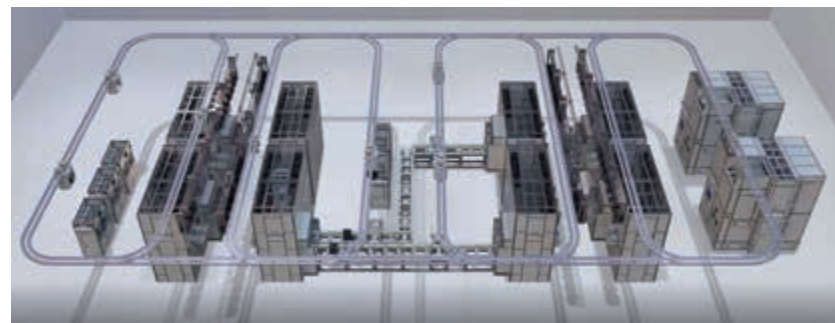
[www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics](http://www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics)

業種別ソリューション、製品情報、導入プロセス、アフターサービスを分かりやすく紹介しています。

### ▶ クリーンルーム

#### 半導体生産ライン向けシステム

半導体メーカーにクリーンルーム専用の保管・搬送システムを提供しています。高度な技術が必要とされるため高いシェアを誇り、売上高の約9割がアジア・北米など海外です。半導体工場の走行レールは総延長10kmにおよび、数百台以上のウエハ搬送ビークルが24時間365日稼働しています。



#### クリーンルーム用搬送システム

##### 「クリーンウェイ」

密接型カセットに格納したウエハを天井走行台車が数百におよぶ複雑な工程を搬送します。摩耗粉が発生しない非接触給電技術を活用しています。自動化ニーズが高まっている後工程向けシステムも開発しています。



#### クリーンルーム用保管システム

##### 「クリーンストッカー」

半導体生産工程で、仕掛品を一時保管する自動倉庫。半導体の微細化加工に対応した、ウエハの劣化を防ぐ「窒素パージシステム」も開発しました。



#### クリーンルーム事業部門サイト

[www.daifuku.com/pro/cr/jp](http://www.daifuku.com/pro/cr/jp)

半導体生産ライン向けシステムの各種製品・システムの動画を紹介しています。

## ▶ オートモーティブ

### 自動車生産ライン向けシステム

プレス・溶接・塗装・組立、部品の保管・供給、エンジンテストなど、自動車生産工程の全域にわたって自動化・省人化システムを供給しています。EVやガソリン車など、多品種生産が見込まれる中、xEV<sup>\*</sup>生産ライン向けの重量級AGV（無人搬送車）も開発しました。

※BEV、HEV、PHEV、FCEVなど電動車の総称。

### チェンレス搬送システム

#### 「フレキシブルドライブシステム」

低速走行や振動の少ない安定した搬送が可能で、組立・加工ラインなどに最適な搬送システム（写真はフロアタイプ）です。



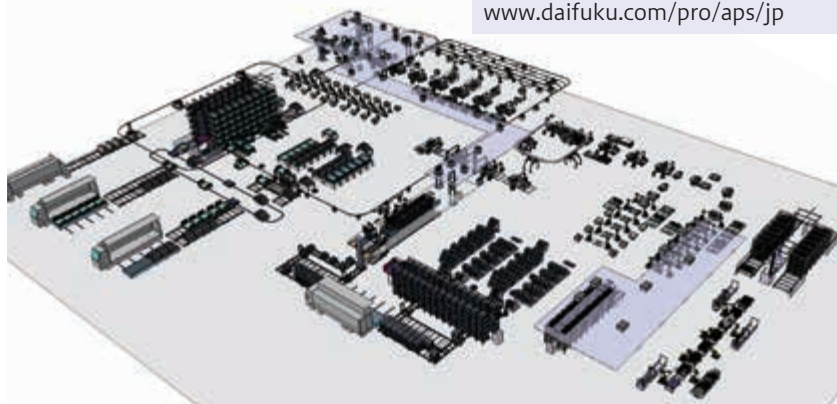
### ドライブスルー型トラックステーション

#### 「TRTS（トータス）」

トラックへの荷物の積み降ろしを一括で行うシステムで、同じ場所で荷積み・荷卸ろし作業を行えるため省スペース化が図れます。また、ドライブスルー方式により停車時間が短縮でき、トラック台数の削減にもつながります。フォークリフトレスによって作業環境の安全性向上に加えて、温室効果ガスの削減等、環境にも配慮できます。



生産ライン最適化支援サービス特設サイト  
[www.daifuku.com/pro/aps/jp](http://www.daifuku.com/pro/aps/jp)



## ▶ エアポート

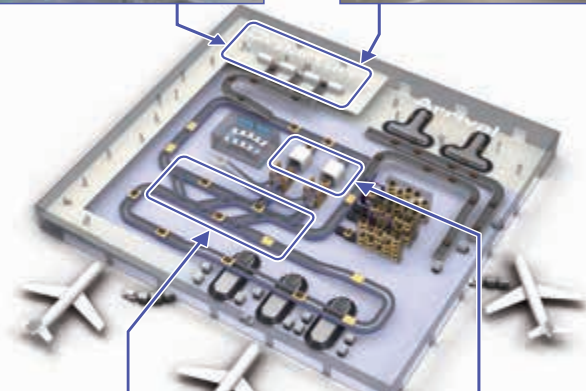
### 空港向けシステム

世界の空港に、手荷物搬送・仕分けシステムをはじめ、セルフ手荷物チェックインシステムやセキュリティシステム、空港内設備監視など「スマートエアポート」を実現するためのソリューションを提供しています。

### セルフ手荷物チェックインシステム



### セキュリティレーンシステム



### 手荷物搬送・仕分けシステム



### 無人搬送式手荷物検査システム

エアポート事業サイト  
[www.daifukuattec.com](http://www.daifukuattec.com) (英文)

## ▶ オートウォッシュ

## 洗車機・関連商品

物流システムで培ったダイフクのモノづくりの技術・品質で洗車機を生産しています。節水・静音タイプの洗車機からトラック・バス用の大型洗車機まで、さまざまな洗車機と洗車関連商品を提供しています。AIを活用し、誰もが安全・安心に利用できる洗車機の開発も進めています。また、洗浄技術を活かし日本で初めてごみ収集車の内部洗浄装置を開発し市場に投入するなど、事業領域の拡大に努めています。



洗車機



ごみ収集車 内部洗浄装置

洗車機・関連商品の販売会社 ダイフクプラスモアのサイト  
[www.daifuku-carwash.jp](http://www.daifuku-carwash.jp)

## ▶ 電子機器

株式会社コンテックを中心に、産業用コンピュータや、計測制御製品・ネットワーク関連製品などのIoT機器の製造・販売、さらにソリューション事業を展開しています。また、AI技術を活用した新規事業にも挑戦しています。

## 産業用コンピュータ

高い信頼性・耐久性が求められるFA環境に対応したコンピュータを開発し、長期安定供給を実現しています。

## IoT 機器

コンピュータを活用した計測制御システムに必要な不可欠な各種信号処理を行うI/Oボード、ネットワーク機器を開発しています。



コンテックサイト  
[www.contec.com/jp](http://www.contec.com/jp)

## 知的財産活動

## ▶ 知的財産の活用

2024年度を初年度とする2027年中期経営計画では、成長を支える仕組みの構築をテーマの一つとして掲げています。これを実現するため、知的財産の権利化促進および保有知的財産権の利活用推進を施策として定めています。

2024年12月末時点の特許登録件数は4,498件です。

## ▶ ダイフクにおける発明考案の推進

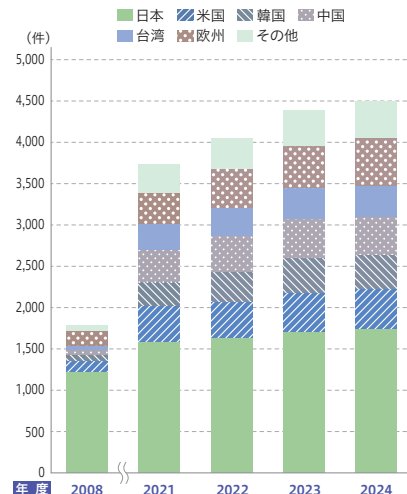
当社では、「発明考案の規程」を定めており、新規開発製品を中心に積極的な特許出願、権利化を図っています。特許は、出願してから登録されるまでに通常4～6年かかるため、出願特許の中から極めて優秀な発明考案に対して、「ダイフク発明大賞・発明賞」としてタイムリーな表彰を全社的に行っています。

2024年度は、ダイフク発明大賞に1件、ダイフク発明賞に4件が選定されました。

## ▶ 海外の特許登録件数

近年は海外への特許出願数も増加傾向にあり、世界30カ国以上で特許を保有しています。特に、中国、韓国、台湾といったアジア圏での特許登録件数が増えています。

## 地域別特許登録件数推移



## ▶ 財務指標

- (注) 1 2024年度は、決算期変更の経過期間であり、国内9カ月間・海外12カ月間の実績値です。  
 2 2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。  
 2020年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。2023年度  
 以前の配当額は、株式分割からさかのぼって便宜的に計算したものです。  
 3 2021年度より新収益認識に関する会計基準を採用しています。

(億円、網かけは過去最高値)

| 年度                     | 2020              | 2021              | 2022              | 2023              | 2024              |
|------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 受注高                    | 4,510             | 5,890             | 7,374             | 6,203             | 5,947             |
| 受注残                    | 3,750             | 4,518             | 5,874             | 5,969             | 6,285             |
| 売上高                    | 4,739             | 5,122             | 6,019             | 6,114             | 5,632             |
| 営業利益                   | 445               | 502               | 588               | 620               | 715               |
| 営業利益率(%)               | 9.4               | 9.8               | 9.8               | 10.2              | 12.7              |
| 経常利益                   | 458               | 512               | 597               | 642               | 744               |
| 親会社株主に帰属する当期純利益        | 323               | 358               | 412               | 454               | 570               |
| 1株当たり当期純利益(円)          | 85                | 94                | 109               | 121               | 154               |
| 1株当たり配当金(円)            | 26.7              | 30                | 36.7              | 40                | 55                |
| 総資産                    | 4,454             | 4,833             | 5,515             | 6,461             | 6,887             |
| 純資産                    | 2,620             | 2,920             | 3,323             | 3,587             | 3,984             |
| ROA(%)                 | 7.6               | 7.7               | 8.0               | 7.6               | 8.6               |
| ROE(%)                 | 13.2              | 13.1              | 13.2              | 13.2              | 15.1              |
| 自己資本比率(%)              | 57.7              | 60.2              | 60.2              | 55.5              | 57.8              |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー       | 382               | 566               | 200               | 371               | 1,161             |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー       | -61               | -98               | -118              | -295              | -23               |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー       | -89               | -275              | -301              | 227               | -368              |
| フリー・キャッシュ・フロー          | 320               | 468               | 81                | 75                | 1,137             |
| 従業員数(人)<br>(うち、海外現地法人) | 11,697<br>(8,045) | 12,436<br>(8,643) | 13,020<br>(9,059) | 13,071<br>(8,999) | 11,042<br>(6,810) |
| 設備投資額                  | 74                | 115               | 168               | 214               | 155               |
| 減価償却費                  | 64                | 73                | 85                | 95                | 79                |
| 研究開発費                  | 91                | 107               | 104               | 112               | 93                |
| 有利子負債                  | 351               | 263               | 114               | 706               | 633               |

## ▶ セグメント別業績推移

| 報告セグメント                | 概 要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ダイフク                   | マテリアルハンドリングシステム・機器、洗濯機などの製造販売の中核                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| コンテックグループ              | 産業用パソコン・インターフェイスボードなどの製造販売                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| DNA <sup>※1</sup> グループ | <div> <div>北米事業 統括会社<br/>Daifuku North America, Inc.</div> <div> <div>イントラロジスティクス<br/>Daifuku Intralogistics America Corporation</div> <div>クリーンルーム<br/>Daifuku Cleanroom America Corporation</div> <div>オートモーティブ<br/>Daifuku Automotive America Corporation</div> <div>エアポート<br/>Daifuku Airport America Corporation</div> </div> </div> |
| CFI <sup>※2</sup>      | 韓国における半導体工場向け搬送システムの販売、製造、工事、サービス                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| DSA <sup>※3</sup>      | 中国における半導体工場向け搬送システムの販売、製造、工事、サービス                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| その他                    | 上記以外の国内および海外子会社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

※1 DNA: Daifuku North America, Inc.

※3 DSA: Daifuku (Suzhou) Cleanroom

※2 CFI: Clean Factomation, Inc.

Automation Co., Ltd.

(億円)

|                                          | 年度    | 2020  | 2021  | 2022  | 2023  | 2024  |
|------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 受注高                                      | ダイフク  | 1,841 | 2,624 | 2,931 | 2,136 | 1,777 |
|                                          | コンテック | 153   | 196   | 192   | 197   | 172   |
|                                          | DNA   | 1,194 | 1,351 | 2,110 | 2,020 | 1,833 |
|                                          | CFI   | 310   | 367   | 481   | 248   | 317   |
|                                          | DSA   | 108   | 264   | 406   | 466   | 318   |
|                                          | その他   | 903   | 1,085 | 1,251 | 1,133 | 1,528 |
|                                          | 計     | 4,510 | 5,890 | 7,374 | 6,203 | 5,947 |
| 売上高                                      | ダイフク  | 1,993 | 2,250 | 2,388 | 2,388 | 1,880 |
|                                          | コンテック | 162   | 157   | 186   | 190   | 169   |
|                                          | DNA   | 1,371 | 1,404 | 1,587 | 1,757 | 1,724 |
|                                          | CFI   | 305   | 286   | 426   | 306   | 258   |
|                                          | DSA   | 140   | 156   | 251   | 300   | 533   |
|                                          | その他   | 755   | 892   | 1,157 | 1,186 | 1,021 |
|                                          | 連結調整等 | —     | -25   | 20    | -16   | 42    |
|                                          | 計     | 4,739 | 5,122 | 6,019 | 6,114 | 5,632 |
| セグメント<br>利益<br>(親会社株主<br>に帰属する<br>当期純利益) | ダイフク  | 260   | 286   | 340   | 332   | 292   |
|                                          | コンテック | 11    | 12    | 9     | 8     | 2     |
|                                          | DNA   | 60    | 75    | 61    | 111   | 162   |
|                                          | CFI   | 27    | 20    | 29    | 18    | 14    |
|                                          | DSA   | 4     | 31    | 19    | 54    | 122   |
|                                          | その他   | 18    | 6     | 36    | 8     | 40    |
|                                          | 連結調整等 | —     | -73   | -85   | -80   | -64   |
|                                          | 計     | 323   | 358   | 412   | 454   | 570   |

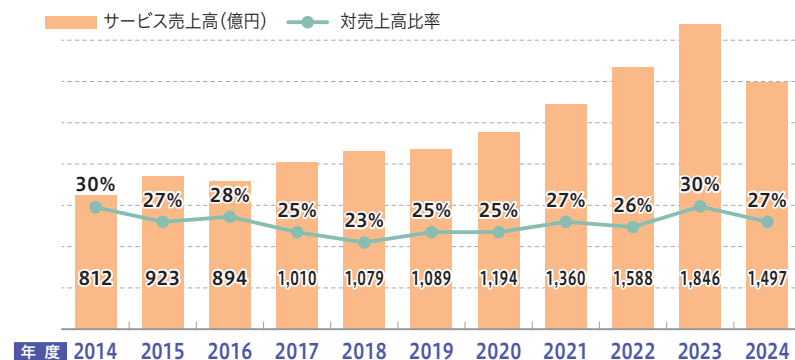
## ▶ 業種別売上高推移

| 業種          | 年度 | 2020  | 2021  | 2022  | 2023  | 2024  |
|-------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 自動車及び自動車部品  |    | 801   | 590   | 654   | 814   | 751   |
| エレクトロニクス    |    | 1,370 | 1,513 | 2,157 | 2,035 | 1,971 |
| 商業及び小売業     |    | 1,155 | 1,551 | 1,609 | 1,475 | 1,098 |
| 運輸・倉庫       |    | 235   | 328   | 304   | 248   | 269   |
| 機械          |    | 112   | 115   | 103   | 103   | 87    |
| 化学・薬品       |    | 183   | 176   | 246   | 251   | 228   |
| 食品          |    | 177   | 200   | 157   | 206   | 218   |
| 鉄鋼・非鉄金属     |    | 44    | 35    | 48    | 54    | 39    |
| 精密機器・印刷・事務機 |    | 87    | 62    | 64    | 43    | 38    |
| 空港          |    | 412   | 437   | 461   | 658   | 718   |
| その他         |    | 158   | 136   | 190   | 239   | 167   |
| 連結調整等       |    | —     | -25   | 20    | -16   | 42    |
| 合計          |    | 4,739 | 5,122 | 6,019 | 6,114 | 5,632 |

(億円)

## ▶ サービス売上高

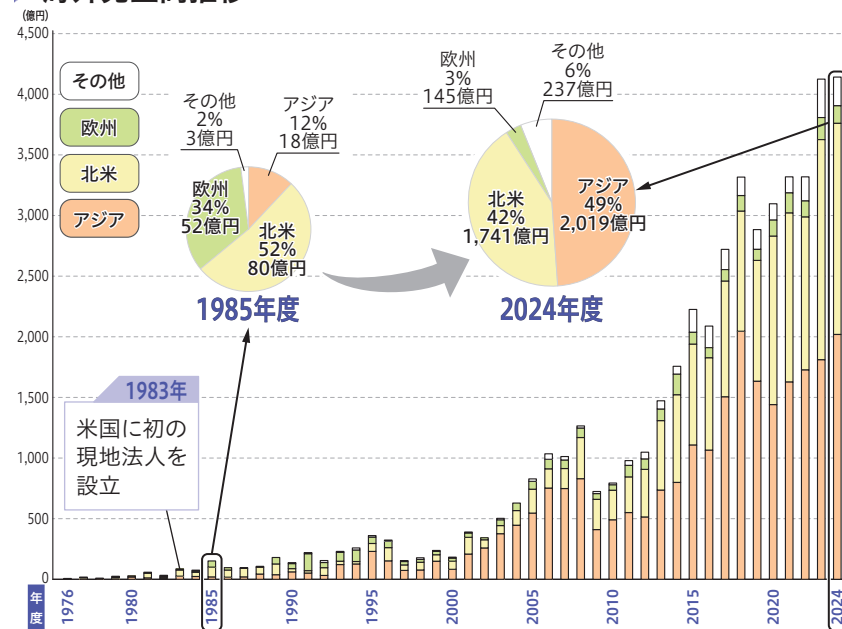
納入したシステム・製品を対象にした保守・メンテナンスなどによる売上高。幅広いサービスメニューを提供しており、安定的な収益につながっています。



## アフターサービス

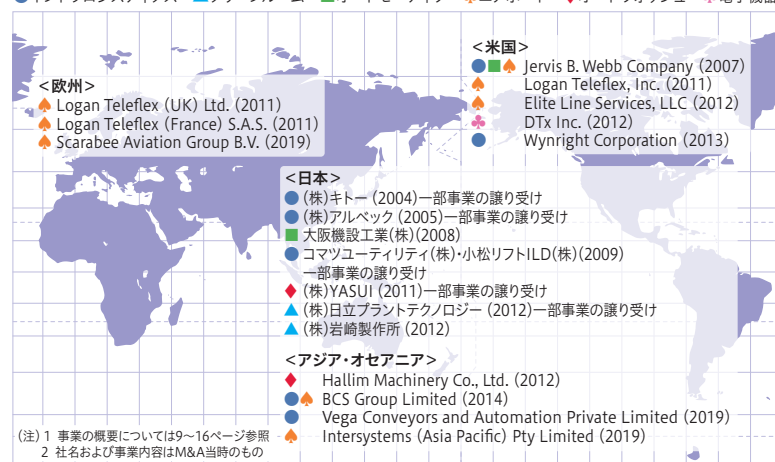
- ・定期点検
- ・システム保守契約
- ・安全技能教育
- ・ファシリティサービス
- ・トラブル対応
- ・パーツ供給
- ・リモートメンテナンス
- ・予知予報システム
- ・オンサイトサービス
- ・改造、リニューアル

## ▶ 海外売上高推移



## ▶ M&amp;Aによる事業領域拡大(2000年以降)

●インフラロジスティクス ▲クリーンルーム ■オートモーティブ ▲エアポート ◆オートウオッシュ ◆電子機器



## ▶ 地域別売上高推移

## ● 日本

物流2024年問題を背景として、物流関連投資が回復基調にあります。自動車を含む製造業や、流通業への豊富な納入実績があり、サービス売上高比率が高い市場です。

## ● 北米

1983年に日系自動車メーカーの米国進出に合わせて現地法人を設立し、一般製造業・流通業向けおよび半導体生産ライン向けに事業の幅を広げました。2007年以降はM&Aにより空港向けシステムに進出。現在、一般製造業・流通業向けシステムの新工場を建設中で、さらなる売上拡大を目指します。

## ● アジア

海外売上高の49%を占めています。半導体生産ライン向け(中国・韓国・台湾など)、自動車生産ライン向け(中国・韓国・タイ・インドネシアなど)のほか、一般製造業・流通業向けの需要拡大が期待されるインドで生産能力増強を図っています。

## ● 欧州

一般製造業・流通業向けシステム、空港向けシステムの保守、メンテナンスサービスなどを行っています。

## ● 中南米

自動車生産ライン向けシステムが中心です。

| 地域      | 年度 | 2020  | 2021  | 2022  | 2023  | 2024  |
|---------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日本      |    | 1,639 | 1,827 | 1,972 | 2,004 | 1,446 |
| 海外      |    | 3,099 | 3,320 | 4,025 | 4,126 | 4,143 |
| 北米      |    | 1,389 | 1,367 | 1,521 | 1,816 | 1,741 |
| アジア     |    | 1,440 | 1,643 | 2,102 | 1,810 | 2,019 |
| 中国      |    | 595   | 572   | 608   | 857   | 1,105 |
| 韓国      |    | 433   | 465   | 600   | 391   | 375   |
| 台湾      |    | 305   | 490   | 587   | 283   | 308   |
| その他     |    | 104   | 114   | 305   | 277   | 229   |
| 欧州      |    | 133   | 158   | 172   | 182   | 145   |
| 中南米     |    | 41    | 52    | 62    | 106   | 66    |
| その他     |    | 93    | 99    | 166   | 211   | 171   |
| 連結調整等   |    | —     | -25   | 20    | -16   | 42    |
| 合計      |    | 4,739 | 5,122 | 6,019 | 6,114 | 5,632 |
| 海外売上高比率 |    | 65%   | 65%   | 67%   | 67%   | —     |

(注) 2024年度は決算期変更に伴う、国内9カ月間・海外12カ月間の実績値のため、海外売上高比率は算出していません。

(注) 1 2024年度は、決算期変更の経過期間のため、国内9カ月間・海外12カ月間の実績値です。  
2 2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。  
2020年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。2023年度以前の配当額は、株式分割からさかのぼって便宜的に計算したものです。

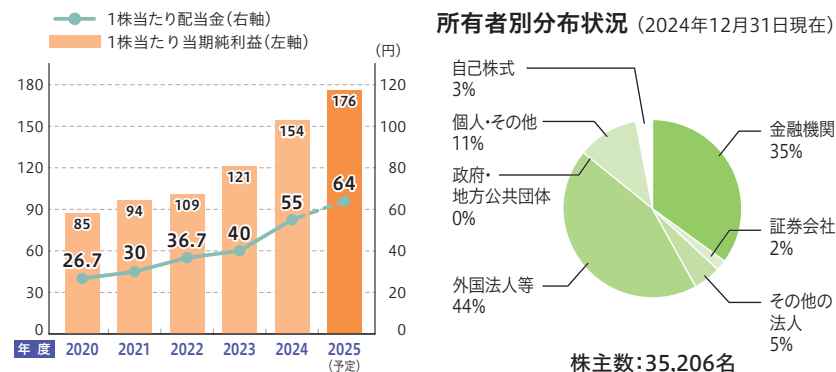
東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383)

単元株数:100株

(円)

| 年度          | 2020        | 2021        | 2022        | 2023        | 2024        |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1株当たり当期純利益  | 85          | 94          | 109         | 121         | 154         |
| 1株当たり純資産    | 680         | 769         | 878         | 966         | 1,082       |
| 株価純資産倍率(倍)  | 5.3         | 3.8         | 2.8         | 3.7         | 3.0         |
| 株価収益率(倍)    | 42.2        | 30.9        | 22.4        | 29.5        | 21.4        |
| 1株当たり配当金    | 26.7        | 30          | 36.7        | 40          | 55          |
| 配当性向(%)     | 31.1        | 31.6        | 33.6        | 32.9        | 35.7        |
| 期末株価        | 3,613       | 2,930       | 2,443       | 3,584       | 3,300       |
| 株主総利回り(%)※  | 159.4       | 130.8       | 111.1       | 164.9       | 156.2       |
| TOPIX(配当込)※ | 142.1       | 145.0       | 153.4       | 216.8       | 221.0       |
| 期末時価総額(億円)  | 13,724      | 11,129      | 9,279       | 13,613      | 12,534      |
| 期末発行済株式数(株) | 379,830,231 | 379,830,231 | 379,830,231 | 379,830,231 | 379,830,231 |
| 資本金(億円)     | 318         | 318         | 318         | 318         | 318         |

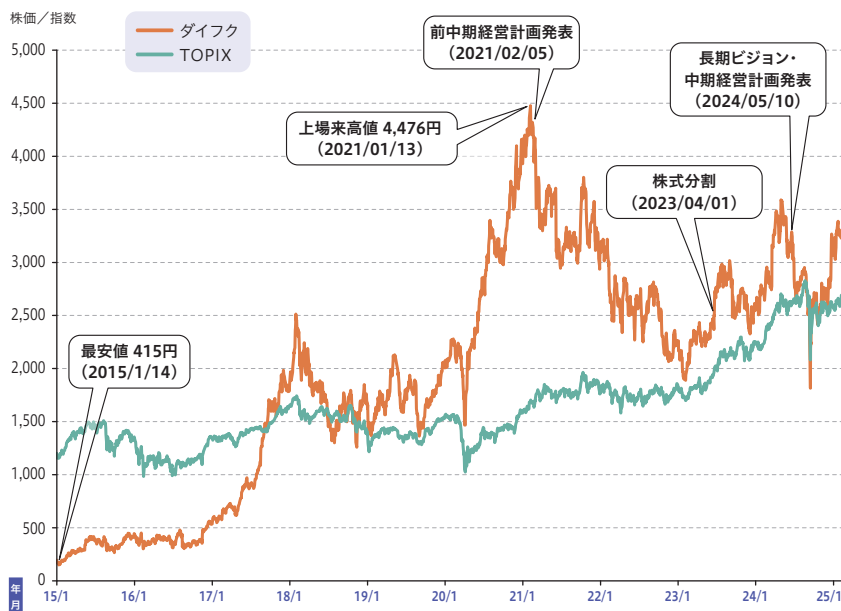
※2019年度末を基準として算出



## ▶ 利益分配に関する基本方針

ダイフクは、株主の皆さまに対する利益還元を最重要事項と位置付けています。2027年中期経営計画における連結配当性向は、各年度とも35%以上を目標としています。

## ▶ 過去10年間の株価推移



(注) グラフの当社株価は、2023年4月1日付けで行った普通株式1株につき3株の株式分割を適用した数値です。

## ▶ IRイベント

ダイフクはIR活動の一環として「株主さま日に新館見学会」の開催や機関投資家・証券会社アナリスト向けにIR Dayを実施しています。



株主さま日に新館見学会



2022年より実施しているIR Day

## ▶ 経済価値と社会価値の創出に向けて

当社は2024年5月、長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」の策定に伴い、重要課題(マテリアリティ)を見直しました。長期ビジョンの達成に向けてグループで対応すべき重要課題をマテリアリティと定義し、マテリアリティを軸として、戦略・施策・行動計画・KPI(実績評価指標)を具体化しました。

## ダイフクが取り組む枠組みとマテリアリティ

| 枠組み                            | マテリアリティ                                                                                                                            |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 既存事業の進化<br>新領域への挑戦<br>次世代事業の創出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI等を含む先端技術を活用した開発</li> <li>・サービスビジネスの拡充</li> <li>・新領域開拓と新規事業創出</li> </ul>                  |
| 成長を支える仕組みの構築                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーション創出に向けた投資・基盤づくり</li> </ul>                                                           |
| 業務全体の刷新                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーンにおける社会的責任の遂行</li> <li>・製品品質、製品安全の追求</li> </ul>                                     |
| 継続した安全活動                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働安全衛生の徹底</li> </ul>                                                                       |
| 環境負荷ゼロに向けた活動                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動への対応</li> <li>・資源循環の促進</li> <li>・自然との共生</li> </ul>                                     |
| 経営体制の強化、管理の高度化                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガバナンスの強化</li> <li>・ステークホルダーコミュニケーションの充足</li> </ul>                                         |
| 組織の強化                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の確保・育成</li> <li>・人権の尊重</li> <li>・ダイバーシティ &amp; インクルージョン</li> <li>・エンゲージメントの向上</li> </ul> |

「マテリアリティ」の詳細はこちら

[www.daifuku.com/jp/sustainability/management/materiality](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/management/materiality)



## ▶ ダイフク環境ビジョン2050 (2024年5月改定)

当社は、2050年に「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を実現します。」と掲げ、3つの重点領域と2030年の環境目標を設定しています。

マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を実現します。



### 2030年の環境目標

| 重点領域            | KPI (実績評価指標)                                        | 目標                            |
|-----------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------|
| <b>気候変動への対応</b> | 自社CO <sub>2</sub> 排出量(スコープ1+2)                      | 60%削減(2018年度比)                |
|                 | 再生可能エネルギー由来の電力比率                                    | 80%<br>(日本は2027年に100%達成見込)    |
|                 | 購入した製品・サービスに伴うCO <sub>2</sub> 排出量<br>(スコープ3 カテゴリー1) | 30%削減 <sup>※1</sup> (2018年度比) |
|                 | 販売した製品の使用に伴うCO <sub>2</sub> 排出量<br>(スコープ3 カテゴリー11)  |                               |
| <b>資源循環の促進</b>  | 廃棄物の埋立率                                             | 1%未満                          |
|                 | 水使用量売上高原単位 <sup>※2</sup>                            | 60%削減 <sup>※3</sup> (2018年度比) |
| <b>自然との共生</b>   | 主要拠点 <sup>※4</sup> における生物多様性保全活動実施率                 | 100%                          |
|                 | サステナビリティアクションのグローバル展開                               | プログラムの拡充・啓発                   |

※1 スコープ3のカテゴリ1およびカテゴリ11合わせでの目標

※2 水使用量(千m<sup>3</sup>) / 売上高(億円)

※3 当初目標を前倒しで達成したため、上方修正しました(2024年8月)

※4 従業員数100人以上の拠点

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management)

## ▶ 環境への取り組み

### CO<sub>2</sub>削減目標がSBTイニシアティブの認定を取得

2023年11月に当社のCO<sub>2</sub>排出量削減目標が、パリ協定に準じた科学的根拠に基づく目標と認められ、SBT (Science Based Targets) イニシアティブ<sup>※</sup>より認定を取得しました(2024年1月公表)。

「ダイフク環境ビジョン2050」では、「気候変動への対応」を重点領域の一つとして設定し、各拠点における再生可能エネルギーの導入、当社製品の稼働や調達活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減などに取り組んでいます。

※ CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI (世界資源研究所)、WWF (世界自然保護基金) が共同で設立した国際的な機関。パリ協定が定める水準と整合した科学的根拠に基づく目標を設定していると認められる企業に対して、認定を付与している。

### 再生可能エネルギーの導入・拡大

2024年11月より、国内で使用する電力をすべて再生可能エネルギー由来へ切り替えました。2024年度はHallim Machinery Co., Ltd. (韓国) で太陽光発電設備を設置し、Daifuku Airport America Corporation (米国) で使用電力を再生可能エネルギー由来に切り替えました。2025年度はインドで太陽光発電設備の稼働開始を予定しており、中国、韓国および米国においても新たに再生可能エネルギーの導入を計画しています。

### 「日に新た館」における情報発信

2024年12月、日に新た館(53ページ)3階に「サステナビリティブース」(写真)を新設し、SDGsの目標達成に向けた滋賀事業所の取り組みをご紹介します。「労働安全衛生の徹底」(安全推進部)、「地域社会とのコミュニケーション」(日に新た館)、「自然との共生」(サステナビリティ推進部)について、それぞれの活動内容に関する動画を放映しています。



## 「DAIFUKUサステナビリティアクション」制度（2012年度～）

当社は、従業員が環境・社会貢献をより身近に感じられるよう、従業員参加型の「DAIFUKUサステナビリティアクション」制度を実施しています。本制度では、従業員が環境・社会活動に参加することでポイントを獲得でき、そのポイントを環境配慮製品等に交換ができるほか、ポイントに応じた金額を会社から外部団体へ寄付しています。2024年度は7,056名が参加し、40,371ポイントを発行しました。なお、外部団体に対しては2023年度の参加実績に基づき計329万円の寄付を行いました。

## 生物多様性保全活動「結いプロジェクト」（2014年度～）

緑に囲まれた約120万m<sup>2</sup>の滋賀事業所の敷地には、森・湿地・ため池などの環境に1,000種以上の在来種が生息しています。この豊かな自然を守るために、生物の保全活動や環境貢献活動、従業員が自然と触れ合う機会づくりなどを行っています。

2024年9月、「結いプロジェクト」の一環として整備している「結いの森」が環境省から「自然共生サイト」に認定されました。「自然共生サイト」とは、民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域が認定されるもので、当社の生物多様性に対する取り組みや社内外との交流活動が評価され、今回の認定につながりました。



絶滅危惧種のヤマトサンショウウオ



「結いの森」の観察湿地



「生物多様性のための30by30アライアンス」ロゴマーク

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity)

## ▶ 社外評価

| 評価機関                 | 評価・スコア(2025年2月時点) |
|----------------------|-------------------|
| MSCI (アメリカ)          | AA                |
| FTSE Russell (イギリス)  | 4.0               |
| CDP Worldwide (イギリス) | 気候変動 : A          |
|                      | 水セキュリティ : A-      |

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/external-evaluation](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/external-evaluation)

## ▶ 安全

“安全はすべてに優先する”をスローガンに掲げ、社長直轄の安全衛生管理本部主導のもと、安全意識の向上に取り組んでいます。

- ・安全パトロールの実施
- ・安全体感道場の運営
- ・主要サプライヤー向け安全衛生トップセミナー開催 等



社長による現場安全パトロール

## ▶ 人材育成

人材育成を効果的に推進するため、体系的かつ重点的な施策を展開しています。特に、事業のグローバル展開を支える人材の育成、マネジメントの強化を進めています。

- ・階層別研修
- ・キャリア開発研修
- ・グローバル人材育成制度
- ・選抜型研修
- ・海外従業員向け研修 等

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-resources](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-resources)

## ▶ 健康

全社横断組織である「こころと体の健康づくり委員会」が健康課題の特定・目標設定や、各種健康イベント、外部講師による講演会、研修を実施しています。

- ・ラインケア／セルフケアセミナー
- ・職場でエクササイズ
- ・健康測定会
- ・ウォーキングイベント 等



外部インストラクターを各職場に招き、軽い運動を実施(写真は小牧事業所)

## ▶ 人権への取り組み

2021年度に「ダイフクグループ人権方針」を策定し、2022年度より人権デュー・ディリジェンス(人権DD)を継続して実施しています。具体的な取り組みとして、サプライヤーに対する訪問インタビューや人権方針への同意書取得、外国人労働者の雇用状況調査などを行っています。今後も「人権の尊重」が事業と組織の持続的な成長における最も重要な責任の一つであると認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-rights](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-rights)

## ▶ ダイバーシティ&インクルージョン

当社は、経営理念に基づいた多様な人材の雇用と従業員の一人ひとりが「働きがい」と「働きやすさ」を感じ、いきいきと仕事ができる環境の整備を推進しています。

### 女性活躍

女性活躍推進に積極的に取り組むため、子育てと仕事の両立を図りながら能力を十分に発揮して成長することができる支援制度の拡充を行っています。今後は女性の管理職登用の取り組みをより強化していきます。

### 障がい者雇用機会の創出

当社では、2024年4月より引き上げとなった障がい者の法定雇用率2.5%の達成に向け、障がい者雇用の取り組みを積極的に進めています。マザー工場である滋賀事業所では、製造現場における障がい者雇用を促進するため、専門の部署を設置しています。県内の高等養護学校などと提携し、職場実習の受け入れや定期採用を行っています。また、当社独自の「採用前実習→会社適応→職場実習→職場適応」というステップを踏むカリキュラムを実施し、安心して働ける体制を構築しました。近年はデジタル化による職域拡大が進んでおり、製造現場での業務だけでなく、設計や管理などの事務的な業務に就くケースも増えてきています。



支援担当社員による組立指導

## ▶ 基本的な考え方

当社グループは、変わらぬ企業姿勢としての「社是」、社会・事業環境の変化を踏まえた「経営理念」の精神に則りながら、コーポレートガバナンスの実効性を継続的に高めることで、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、社会・経済全体の発展に寄与していきます。

この基本的な考え方に則り、「ダイフクグループ コーポレートガバナンスに対する基本方針」を制定しています。

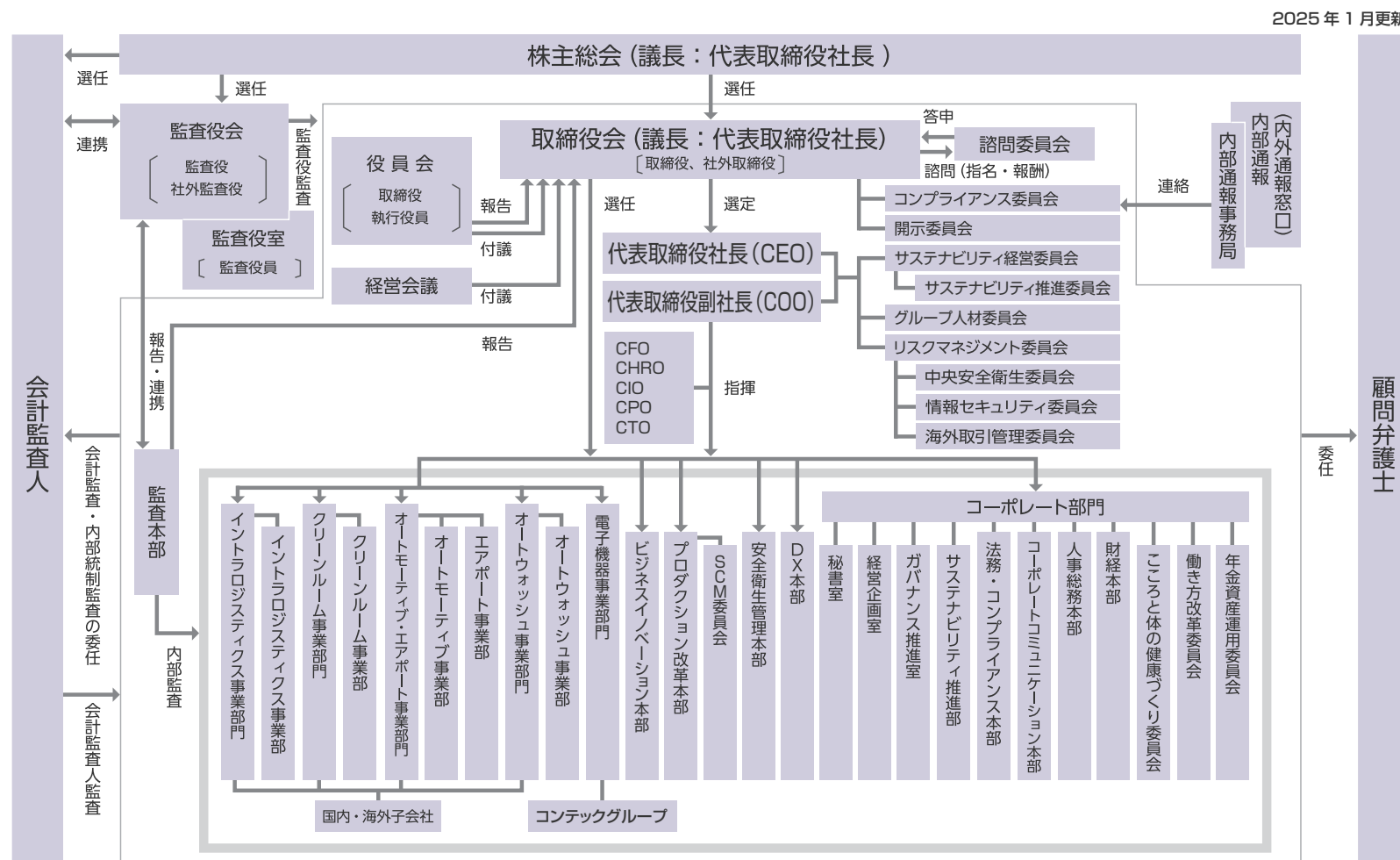
詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance](http://www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance)

## ▶ コーポレートガバナンス体制の概要 (2025年3月28日現在)

|                       |                                                          |
|-----------------------|----------------------------------------------------------|
| 組織形態                  | 監査役会設置会社                                                 |
| 定款上の取締役の任期            | 1年                                                       |
| 取締役会の議長               | 代表取締役社長(CEO)                                             |
| 取締役の人数                | 11名(内、社外6名)                                              |
| 取締役会開催回数(2024年度)*     | 定例9回、臨時4回                                                |
| 任意の委員会の有無             | 有り(指名、報酬に係る諮問委員会)                                        |
| 諮問委員会の構成員・議長          | 構成員:代表取締役1名以上、社外取締役1名以上を含めた3名以上<br>議長:社外取締役<br>回数:年3回以上  |
| 監査役的人数                | 4名(内、社外3名)                                               |
| 監査役会開催回数(2024年度)*     | 定例6回                                                     |
| 社外取締役および社外監査役の独立性判断基準 | 当社の基準を定め、株主総会招集通知などで開示しています。                             |
| 取締役会の実効性評価            | 取締役・監査役へのアンケート調査を外部機関に委託。概要をコーポレートガバナンス報告書などで開示しています。    |
| 中長期業績に連動する取締役報酬       | 業績連動型の株式報酬制度である株式給付信託(BBT: Board Benefit Trust)を導入しています。 |

※決算期変更に伴い、2024年度は2024年4月1日から12月31日の9カ月間の開催回数です。

▶ コーポレートガバナンス体制図



## 2025年度の主な組織改定ポイント

・事業環境の急激な変化に対応し、当社グループの持続的な成長と企業価値向上を目指すとともに、次世代に向けた経営体制の構築も見据え、「代表取締役副社長（COO※）」を設置しました。

※COO (Chief Operating Officer) :最高執行責任者

・当社グループの人材の経験・スキルの見える化を進め、キーポジション（主要幹部職）の後継候補者計画の策定や計画的な後継者候補者の育成・登用を実施する「グループ人材委員会」を新設しました。

▶ 社内取締役



代表取締役社長 (CEO)  
社長執行役員  
下代 博



代表取締役副社長 (COO)  
副社長執行役員  
クリーンルーム事業部門長  
寺井 友章



取締役  
専務執行役員  
Daifuku North America, Inc.  
President and CEO  
佐藤 誠治



取締役  
専務執行役員  
CHRO (Chief Human Resource Officer)  
コーポレート部門長  
田久保 秀明



取締役 (新任)  
常務執行役員  
CFO (Chief Financial Officer)  
コーポレート部門副部門長  
財経本部長  
日比 徹也

▶ 社外取締役



取締役  
小澤 義昭



取締役  
加藤 格



取締役  
金子 圭子



取締役  
Gideon Franklin  
ギディオン・フランクリン



取締役 (新任)  
吉田 晴行



取締役 (新任)  
神崎 夕紀

▶ 監査役



常勤監査役  
齊藤 司



社外監査役  
宮島 司



社外監査役  
和田 信雄



社外監査役  
箱田 英子

## ▶ 取締役会の構成

当社は、経営環境の変化や当社グループにおける経営方針・経営計画などを考慮して、専門性や経験、多様性などの面から最適な取締役会の構成を検討し、取締役を選任しています。各取締役の専門性・経験を示したスキル・マトリックスは以下のとおりです。

### 取締役会のスキル・マトリックス

| 氏名           | 独立性 | 専門性・経験 |        |       |              |            |       |     |
|--------------|-----|--------|--------|-------|--------------|------------|-------|-----|
|              |     | 企業経営   | テクノロジー | 財務・会計 | 法務・リスクマネジメント | 営業・マーケティング | グローバル | ESG |
| 下 代 博        |     | ●      |        |       | ●            |            | ●     |     |
| 寺 井 友 章      |     | ●      | ●      |       |              |            | ●     |     |
| 佐 藤 誠 治      |     | ●      |        |       |              | ●          | ●     |     |
| 田久保 秀明       |     | ●      |        |       | ●            |            |       | ●   |
| 日 比 徹 也      |     | ●      |        | ●     |              |            | ●     |     |
| 小 澤 義 昭      | ✓   |        |        | ●     |              |            | ●     | ●   |
| 加 藤 格        | ✓   |        |        |       | ●            |            | ●     | ●   |
| 金 子 圭 子      | ✓   |        |        |       | ●            |            | ●     | ●   |
| ギディオン・フランクリン | ✓   | ●      |        | ●     |              |            | ●     |     |
| 吉 田 晴 行      | ✓   | ●      |        | ●     |              |            | ●     |     |
| 神 崎 夕 紀      | ✓   | ●      | ●      |       |              |            |       | ●   |

\* 各人の有するスキルのうち主なもの最大3つに「●」印をつけています。

\* 上記一覧表は、各人の有するすべての知識・経験・能力等を表すものではありません。

## ▶ 専務執行役員

|       |                                                                                                      |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 三品 康久 | CPO (Chief Production Officer)<br>CIO (Chief Information Officer)<br>滋賀事業所長<br>プロダクション改革本部長<br>DX本部長 |
| 上本 貴也 | オートモーティブ・エアポート事業部門長                                                                                  |
| 権藤 卓也 | CTO (Chief Technology Officer)<br>ビジネスイノベーション本部長                                                     |

## ▶ 常務執行役員

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 西村 章彦 | オートモーティブ・エアポート事業部門副事業部門長            |
| 鳥谷 則仁 | イントラロジスティクス事業部門長<br>イントラロジスティクス事業部長 |
| 園田 篤  | クリーンルーム事業部長<br>小牧事業所長               |

## ▶ 執行役員

|       |                                                                                                      |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 喜多 浩明 | エアポート事業部副事業部長<br>Daifuku Airport Technologies Japan 株式会社 代表取締役社長<br>株式会社スカパービーエーショングループ・ジャパン 代表取締役社長 |
| 山本 誠二 | イントラロジスティクス事業部工事・サービス本部長<br>安全衛生管理本部長                                                                |
| 前田 勉  | オートモーティブ事業部長<br>安全衛生管理本部副本部長                                                                         |
| 秋葉 博文 | コーポレートコミュニケーション本部長                                                                                   |
| 井筒 正幸 | エアポート事業部長<br>エアポート事業部エアポート本部長                                                                        |
| 田中 崇文 | オートウォッシュ事業部門長<br>オートウォッシュ事業部長<br>株式会社ダイフクプラスモア 代表取締役社長                                               |
| 矢野 準二 | イントラロジスティクス事業部生産本部長                                                                                  |
| 西山 和良 | 電子機器事業部門長<br>株式会社コンテック 代表取締役社長                                                                       |
| 大谷 諭  | オートモーティブ事業部事業推進本部長                                                                                   |

## ▶ 監査役員

|       |       |
|-------|-------|
| 高橋 利勝 | 監査役室長 |
|-------|-------|

| 事業環境  | 第2次世界大戦         |                                                                     |                      |                          | 焦土からの再建                     |                     |           |               | 高度成長期 |  |  |            |
|-------|-----------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------|--------------------------|-----------------------------|---------------------|-----------|---------------|-------|--|--|------------|
| 年     | 1937年           | 1939年                                                               | 1944年                | 1947年                    | 1957年                       | 1963年               | 1964年     | 1966年         |       |  |  |            |
| トピック  | (株)坂口機械製作所として創業 | 御幣島工場(現大阪本社)を建設                                                     | 総合商社の傘下入り、兼松機工(株)と改称 | 大福機工(株)に改称 <sup>※1</sup> | 米国Webb社 <sup>※2</sup> と技術提携 |                     |           | わが国初の自動倉庫     |       |  |  |            |
| 製品    | 鍛圧機械<br>起重機     |                                                                     |                      | 港湾荷役運搬機器                 | チェーンコンベヤ<br>(40ページ)         | ボウリング<br>マシン(40ページ) | 無人搬送車     | 建屋一体型パレット自動倉庫 |       |  |  |            |
| 経営指針  |                 | 1946年<br>契約は必ず守り、納期厳守。<br>製品に責任を持ち、アフターサービスを充実させる。<br>人材、特に技術者を集める。 |                      |                          |                             | ウェブコンベヤを担いで自動車と心しよう | 社は「日新」を制定 |               |       |  |  | [太字:現在も生産] |
| 提供価値  |                 |                                                                     |                      |                          | 自動車の大量生産                    |                     |           | 電機、化学などの工場自動化 |       |  |  |            |
| スローガン |                 |                                                                     |                      | 荷役運搬機械武芸百般               | マテハンの大福                     |                     |           | 無人への挑戦        |       |  |  |            |

※1 大阪と福知山に工場があったこと、中国語でめでたい言葉であることなどから命名。

※2 現社名: Daifuku Airport America Corporation

## 創業

1937年5月20日、ダイフクの前身である株式会社坂口機械製作所を創業。主に圧延機、エアハンマー、製鉄用の鍛圧機械(写真右下)や各種起重機を製造していました。

1939年、主力の工場を大阪市西淀川区御幣島に建設しました(現大阪本社)。



1939年ごろの御幣島工場



鍛圧機械

## 社は「日新」

今日の「われ」は昨日の「われ」にあらず

明日の「われ」は今日の「われ」にとどまるべからず

社は「日新(ひにあらた)」は、ダイフクの開拓、開発意欲に燃える企業精神が表現されており、社員の心の支え、行動原理になっています。

基になったのは、紀元前16世紀頃、中国最初の王朝・殷の創始者・湯王(とうおう)が自らを鼓舞した逸話です。湯王は、「苟日新、日日新、又日新」の言葉を洗面器に刻んで毎日三度唱えて自戒し、数百年続いた王朝の基礎を築きました。これは、「今日の行いは昨日よりも新しくよくなり、明日の行いは今日よりも新しくよくなるように修養に心がけねばならない」という意味です。

|       |                                                                                                                         |       |                         |                                   |            |                                                  |                                    |                                             |       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------|-----------------------------------|------------|--------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------|-------|
| 事業環境  | <div>——— 高度成長期 レジャーブーム</div> <div>ボウリングブームの終えん</div> <div>安定成長期へ</div> <div>世界一の自動車生産国に</div> <div>「ロボットがロボットを作る」</div> |       |                         |                                   |            |                                                  |                                    |                                             |       |
| 年     | 1969年                                                                                                                   | 1971年 | 1973年                   | 1975年                             | 1980年      | 1984年                                            | 1986年                              | 1987年                                       | 1991年 |
| トピック  | ボウリングの利益でコンピュータや開発に積極投資                                                                                                 |       | わが国初の冷凍自動倉庫             | (株)コンテック設立<br>滋賀事業所の操業開始          | 初の現地法人を米国に | 株式会社ダイフクに改称                                      |                                    |                                             |       |
| 製品    | オンライン制御自動倉庫<br>バッテリーフォークリフト                                                                                             |       | ユニット式パレット自動倉庫<br>(9ページ) | 自動仕分け機<br>中・軽量棚<br>「テレリフト」(43ページ) | 洗車機(16ページ) | 自動車工場用モノレール式搬送システム<br>半導体生産ライン向け搬送・保管システム(13ページ) | デジタル表示式ピッキングシステム<br>ケース自動倉庫(11ページ) | チェンレス搬送システム(14ページ)<br>ローラコンベヤ<br>[太字:現在も生産] |       |
| 経営指針  | 成長と充実                                                                                                                   |       |                         | 省力化は第3次産業でも必要である                  |            |                                                  |                                    |                                             |       |
| 提供価値  | 消費生活レベル向上                                                                                                               |       |                         | スーパーや図書館の自動化                      |            | 半導体工場の自動化                                        |                                    |                                             |       |
| スローガン | FAのダイフク                                                                                                                 |       |                         |                                   |            | Advanced FA                                      |                                    |                                             |       |



国内初の乗用車専用工場に納入されたコンベヤシステム



国産のボウリングマシン1号機

ダイフクは、第2次世界大戦後の混乱期、高度成長から安定成長への転換期で大きな試練を乗り越えてきました。

1957年、創業製品のクレーンや製鉄機械に見切りをつけ、1960年度には米国 Jervis B. Webb Company (Webb社)が開発したチェンコンベヤを中心とする体制を確立しました。Webb社は1919年創業で、米国のモータリゼーションを支えてきた老舗企業です。後に当社グループの一員となります。

1972年度、ボウリングマシンが売上高の72%に達しました。ボウリングマシンは機構的にマテハンの応用で、コンベヤなどの受注品と異なり、計画生産品であることが経営上の魅力です。ボウリングブームに乗って急成長しましたが、ブーム終息後は、本来のマテハンシステムに特化した事業活動に回帰しています。

| 事業環境     | アジア経済危機                                                                 |  | インターネットの普及             |  |                              |  | グローバル化                                        |  | リーマン・ショック                                                                |  | 東日本大震災                                          |  |                        |  |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|--|------------------------|--|------------------------------|--|-----------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------|--|------------------------|--|
| 年        | 1994年                                                                   |  | 1995年                  |  | 1999年                        |  | 2002年                                         |  | 2007年                                                                    |  | 2008年                                           |  | 2011年                  |  |
| トピック     | 日に新館オープン<br>(53ページ)<br>ISO 9001 認証始まる                                   |  | 韓国にCFIを<br>設立          |  | 滋賀・小牧事業所が<br>ISO 14001 認証を取得 |  |                                               |  | 滋賀事業所を世界最大級のマテハン生産拠点に<br>米国Webb社を完全子会社化<br>世界の生産拠点で<br>ISO 9001と14001を取得 |  |                                                 |  | 北米事業統括会社<br>(現DNA)を設立  |  |
| 製品       | 小物高速自動仕分け機<br>世界初の非接触給電システム                                             |  | 自動搬送式納骨堂<br>(44ページ)    |  | 第5世代液晶パネル<br>搬送システム          |  | 自動車塗装システム                                     |  | 高能力ケース自動倉庫                                                               |  | 世界最速の空港手荷物<br>搬送システム(15ページ)<br>高能力デジタルピッキングシステム |  | [太字:現在も生産]             |  |
| 経営<br>指針 | 広く国内外に、最適・最良<br>のマテリアルハンドリング<br>システム・機器および電子<br>機器を提供し、産業界の<br>発展に貢献する。 |  | 世界最適地生産<br>最適地調達       |  |                              |  |                                               |  | 質、量ともに世界No.1の<br>マテハン企業へ                                                 |  | 「5つの新しい」に挑戦<br>(市場・製品・生産方法・<br>グローバルパートナー・事業)   |  |                        |  |
| 提供価値     |                                                                         |  |                        |  |                              |  |                                               |  |                                                                          |  |                                                 |  | 環境にやさしい、安全で、安心な商品・システム |  |
| スローガン    | Logistics Navigator                                                     |  | IT革命・物流革命に<br>挑戦するダイフク |  |                              |  | Material Handling and Beyond<br>モノを動かす。心を動かす。 |  |                                                                          |  |                                                 |  |                        |  |

## ▶ 時代のニーズに即した顧客・業種別売上高

(億円、( )内は構成比)

| 年度        | 1996※    | 2005     | 2009     | 2013     |
|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 業種        | FAの高度化   | 液晶の普及    | 航空旅客の増大  | eコマース本格化 |
| 自動車・自動車部品 | 257(20%) | 542(27%) | 237(15%) | 589(24%) |
| エレクトロニクス  | 242(19%) | 637(32%) | 456(30%) | 593(25%) |
| その他製造業    | 377(30%) | 263(13%) | 264(17%) | 332(14%) |
| 商業・小売     | 145(12%) | 304(16%) | 280(18%) | 459(19%) |
| 運輸・倉庫     | 94( 7%)  | 141( 7%) | 92( 6%)  | 84( 3%)  |
| 空港        | -( - )   | -( - )   | 104( 7%) | 205( 9%) |
| その他       | 156(12%) | 98( 5%)  | 106( 7%) | 153( 6%) |
| 合計        | 1,273    | 1,988    | 1,542    | 2,418    |

※1996年度のみ単体売上高

ダイフクは、ノウハウや技術を蓄積、ミックスし、新しい産業分野に応用することで、イノベーションを継続しています。

1980年代、半導体工場のクリーンルーム向け搬送システムの需要が急増しました。中核機種の天井走行モノレール(写真上)は、病院のカルテや検体、図書館の蔵書、空港の書類などの搬送に使われる「テレリフト」(写真下)を発展させたものです。

2000年代には、液晶パネル工場向けのシステムを、また2007年には、M&Aで空港向けシステムを加えました。

近年は、商業・小売や運輸・倉庫分野の売上高が年々拡大しています。コンビニエンスストア、総合スーパー、医薬卸、百円ショップ、eコマースなど、幅広い流通形態に合ったシステムを開発しています。



|       |                                                            |  |                               |  |                                 |  |                          |  |                               |  |                                     |  |                                                 |  |
|-------|------------------------------------------------------------|--|-------------------------------|--|---------------------------------|--|--------------------------|--|-------------------------------|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------------------|--|
| 事業環境  | 中国のGDPが世界2位に                                               |  | 新興国生活水準の向上                    |  | ネット通販の普及                        |  | 物流現場の人手不足                |  |                               |  |                                     |  |                                                 |  |
| 年     | 2012年                                                      |  | 2013年                         |  | 2014年                           |  | 2015年                    |  | 2016年                         |  | 2017年                               |  | 2018年                                           |  |
| トピック  | 中国にDSAを設立                                                  |  | 滋賀県最大級(当時)メガソーラー完成            |  | 国連グローバルコンパクトに署名                 |  |                          |  |                               |  | 公募増資などにより<br>資本金が150億円から<br>318億円に  |  |                                                 |  |
| 製品    | 調剤監査支援システム(写真1)<br>半導体工場向け窒素パージシステム<br>高能力ケース荷揃えシステム(9ページ) |  |                               |  | エリア管理システム<br>部品物流向け一時保管・仕分けシステム |  |                          |  | 電動フォークリフト向け<br>非接触充電システム(写真2) |  | 第10.5世代<br>液晶生産ライン向けシステム<br>(14ページ) |  | ドライブスルー型<br>トラックステーション<br>(14ページ)<br>[太字:現在も生産] |  |
| 経営指針  | “オンリーワン”<br>を生み出そう                                         |  | 安全はトッププライオリティ。<br>安全文化を世界に広げる |  |                                 |  | 真の世界No.1<br>マテハングローバル企業へ |  |                               |  |                                     |  |                                                 |  |
| 提供価値  | お客さまの競争優位性を押し上げる                                           |  |                               |  |                                 |  |                          |  |                               |  | お客さまが求めるスマート・ロジスティクスの提供             |  |                                                 |  |
| スローガン | Always an Edge Ahead                                       |  |                               |  |                                 |  |                          |  |                               |  |                                     |  |                                                 |  |

## ▶ 幅広い分野で活躍するマテハン

ダイフクは、これまでに培ったノウハウを活用し、世界の幅広い産業界にさまざまなマテハンシステム・機器を提供しています。

### ダイフク公式チャンネル「D-Tube!」

当社公式のYouTubeチャンネルで、さまざまな製品や導入事例の動画をご覧いただけます。

[www.youtube.com/user/daifukuchannel](http://www.youtube.com/user/daifukuchannel)

### 寺院・霊園

都市部の墓地不足を背景に、多様なモデルを開発・提供しています。



自動搬送式納骨堂

### 調剤薬局

画像認識と重量検品を組み合わせ、投薬ミスを防止します。



(写真1) 調剤監査支援システム「audit」

### 工事・物流現場

バッテリー駆動の電動車両への充電を非接触で行います。



(写真2) 電動フォークリフト向け非接触充電システム「D-PAD」

|       |                          |                                             |       |                                      |           |                                                  |            |
|-------|--------------------------|---------------------------------------------|-------|--------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------|------------|
| 事業環境  | 新型コロナウイルス感染症拡大           |                                             |       |                                      |           |                                                  |            |
| 年     | 2019年                    | 2020年                                       | 2021年 | 2022年                                | 2023年     | 2024年                                            | 2025年      |
| トピック  |                          | 経営理念を改定<br>「ダイフク環境ビジョン2050」<br>を制定          |       | (株)コンテックを<br>完全子会社化                  | ユーロ円CBを発行 | 決算期を変更(5ページ)<br>長期ビジョンを策定(4～7ページ)<br>滋賀事業所の再編を開始 |            |
| 製品    |                          | 超高密度パレット<br>自動倉庫<br>ピースピッキングロボット<br>(12ページ) |       | パレット系無人搬送台車<br>ピース仕分けシステム<br>(12ページ) |           | ごみ収集車 内部洗浄装置<br>(16ページ)                          | [太字:現在も生産] |
| 経営指針  | スピード感のある改革               | グローバル競争力の強化                                 |       |                                      |           |                                                  |            |
| 提供価値  | 持続可能な社会の実現に貢献            |                                             |       |                                      |           |                                                  |            |
| スローガン | Automation that Inspires |                                             |       |                                      |           |                                                  |            |

▶ 最新のトピックス

ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債（ユーロ円CB）を発行

2023年9月、2種類のユーロ円CBを発行しました。2028年満期および2030年満期の新株予約権付社債です。本社債の発行による手取金約600億円の用途は以下のとおりです。

約400億円：設備投資

- 滋賀事業所における一般製造業・流通業向けシステムおよび半導体生産ライン向けシステム等を中心とした工場生産設備の維持更新や増強(約330億円)
- 米国やインドにある一般製造業・流通業向けシステムの工場生産設備の増強(約70億円)

約200億円：自己株式取得（実施済）

- 資本効率の改善および株式数削減を通じた1株当たり株式価値の向上
- 本ユーロ円CBの発行に伴う当社株式需給への短期的な影響の緩和

【投資予定拠点】

|     |                                              |
|-----|----------------------------------------------|
| 日本  | 滋賀事業所                                        |
| 米国  | Daifuku Intralogistics America Corporation   |
| インド | Daifuku Intralogistics India Private Limited |

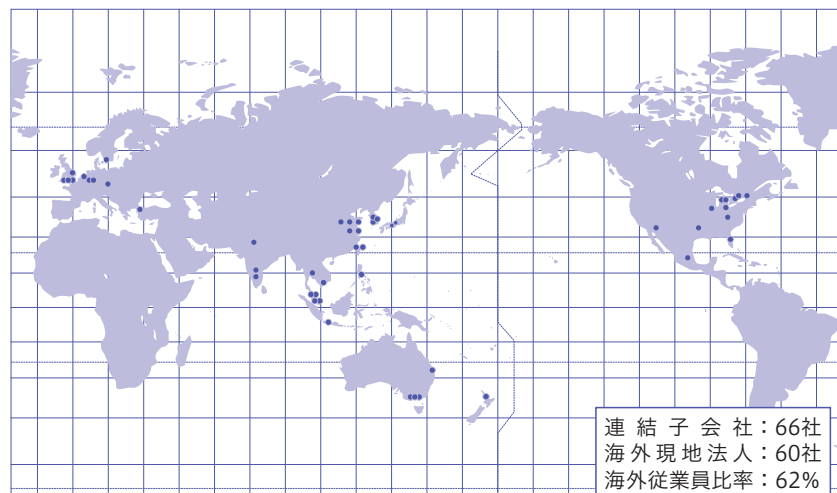
滋賀事業所の再編を開始

当社グループのマザー工場である滋賀事業所（蒲生郡日野町）で生産能力の増強、工場物流の最適化などを目的とした再編を開始し、2024年4月には、事業所内の2つの工場棟（「G棟」および「M棟」）の起工式を開催しました。  
2028年までを目途に約330億円を投じ、同事業所の生産能力を1.4倍に拡大させるとともに、事業所内への外部倉庫の取り込みによる物流の効率化や、老朽化した設備の改修によるBCP対応などを進めます。

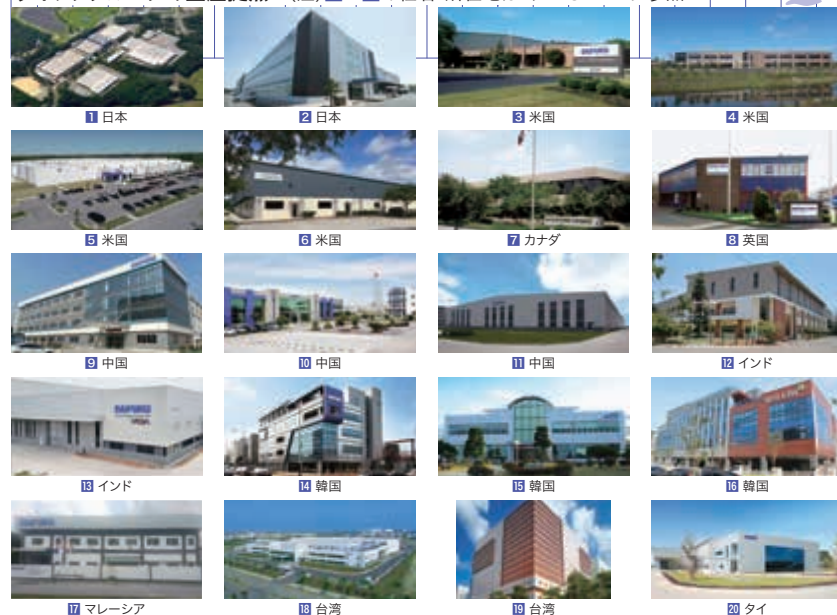


G棟(左)とM棟(右)の完成イメージ

## 24の国と地域で事業を展開



ダイフクグループの生産拠点 (注) 1～20の社名・所在地は49～51ページ参照



## 主要事業所

|                                                                              |                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| <b>本社(大阪)</b><br>〒555-0012<br>大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11<br>TEL:06-6472-1261(代)     | <b>東京本社</b><br>〒105-0022<br>東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング<br>TEL:03-6721-3501(代) |
| <b>滋賀事業所</b> ..... 1<br>〒529-1692<br>滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225<br>TEL:0748-53-0321(代) | <b>小牧事業所</b> ..... 2<br>〒485-8653<br>愛知県小牧市小牧原4-103<br>TEL:0568-74-1500(代)  |
| 営業・サービス拠点 全国約60カ所                                                            |                                                                             |

## 海外支店

|               |   |                 |   |
|---------------|---|-----------------|---|
| チェコ支店 .....   | ■ | イスタンブール支店 ..... | ■ |
| ドイツ支店 .....   | ● | イギリス支店 .....    | ● |
| フィリピン支店 ..... | ■ |                 |   |

## 国内子会社

|                     |   |                                    |
|---------------------|---|------------------------------------|
| 株式会社コンテック .....     | ♣ | Daifuku Airport Technologies Japan |
| 株式会社ダイフクプラスモア ..... | ◆ | 株式会社 .....                         |
| 株式会社ダイフクビジネスサービス    |   | 株式会社スカラベアビエーション                    |
| 株式会社ダイフク・マニュファクチャ   |   | グループ・ジャパン .....                    |
| リング・テクノロジー .....    | ● | ♠                                  |

## 北中米

## Daifuku North America, Inc.

Novi, MI, U.S.A.

## Daifuku Automotive America

## Corporation ..... 3 ■

## ・ Main Office &amp; Plant

Reynoldsburg, OH, U.S.A.

## ・ Carlisle Forging Plant

South Carolina

## ・ Other offices

Indiana, Kentucky, Michigan, Tennessee

## Daifuku Cleanroom America

## Corporation ..... ▲

## ・ Main Office: Chandler, AZ, U.S.A.

## ・ Oregon Test Center &amp; Office: Oregon

## ・ Austin Office: Texas

## Daifuku Airport America

## Corporation ..... 4 ♠

## ・ World Headquarters

Novi, MI, U.S.A.

## ・ Canada Branch

Dorval, Quebec, Canada

## ・ Plants: Kentucky, Michigan

## Daifuku Services America

## Corporation ..... ● ♠

Carrollton, TX, U.S.A.

## Daifuku Intralogistics America

## Corporation ..... 5 ●

## ・ World Headquarters

Hobart, IN, U.S.A.

## ・ Innovation Center: Illinois

## ・ Other offices

Florida, Kentucky, Michigan, Utah

## ・ Plants: Indiana, Texas

## Contec Americas Inc. .... 6 ♣

Melbourne, FL, U.S.A.

## Daifuku Canada Inc. .... ■

Mississauga, Ontario, Canada

## Daifuku Manufacturing Canada

## Corporation ..... 7 ● ■ ♠

Hamilton, Ontario, Canada

## Daifuku Airport Technologies Canada Inc. .... ♠

Montréal, QC, Canada

## Daifuku de México, S.A. de C.V. .... ■

Querétaro, Qro., México

## 欧州

## Daifuku Europe GmbH ..... ●

## ・ Main Office

Moenchengladbach, Germany

## ・ Denmark Branch: Copenhagen, Denmark

## ・ Sweden Branch: Helsingborg, Sweden

## ・ UK Branch: Milton Keynes, U.K.

## Daifuku Automotive U.K. Ltd. .... ■

Milton Keynes, U.K.

## Daifuku Logan Ltd. .... 8 ♠

## ・ Main Office: Hull, U.K.

## ・ France Branch: Alfortville, France

## Scarabee Aviation Group B.V. .... ♠

Hoofddorp, The Netherlands

## アジア・オセアニア

## BCS Airport Systems Pty. Ltd. .... ♠

Mascot, NSW, Australia

## BCS Logistics Solutions Pty. Ltd. .... ●

Mascot, NSW, Australia

## BCS Infrastructure Support Pty. Ltd. .... ● ♠

Mascot, NSW, Australia

## Intersystems (Asia Pacific) Pty. Ltd. .... ♠

Mascot, NSW, Australia

## 大福 (中国) 有限公司

中国・上海

## 大福 (中国) 自動化設備有限公司 ..... 9 ■

## ・ 本社: 中国・江蘇省常熟

## ・ 分公司: 北京、長春、重慶、広州、天津、武漢

## ・ 事務所: 南沙、泰達、鄭州

## 大福 (中国) 物流設備有限公司 ..... 10 ●

## ・ 本社: 中国・上海松江

## ・ 分公司: 北京、広州、南京、深圳、無錫

## ・ 事務所: 長沙、成都、重慶、杭州、虹橋、寧波、

蘇州、太倉、天津、武漢、西安

## 大福自動搬送設備 (蘇州) 有限公司 ..... 11 ▲

## ・ 本社・工場: 中国・江蘇省蘇州

## ・ 分公司: 成都、杭州、青島、蘇相研発、上海、

深圳、武漢、西安

## 康泰克 (上海) 信息科技有限公司 ..... ♣

## ・ 本社: 中国・上海

## ・ 分公司: 北京

## Daifuku India Private Limited ..... ■

## ・ Main Office: Haryana

## ・ Other offices: Bengaluru, Gujarat

## Daifuku Manufacturing India

## Private Ltd. .... 12 ■

Karnataka, India

## Daifuku Intralogistics India

## Private Limited ..... 13 ●

## ・ Main Office &amp; Plant: Hyderabad, India

## ・ Mumbai Office: Mumbai

## ・ Technology Center: Pune

## P.T. Daifuku Indonesia ..... ● ■

## ・ Main Office: Jakarta, Indonesia

## ・ Deltamas Office: Bekasi

## Daifuku Korea Co., Ltd. .... 14 ● ■

## ・ Main Office / R&amp;D Center

Incheon, Korea

## ・ Incheon Plant: Incheon

## Clean Factomation, Inc. .... 15 ▲

## ・ Main Office

Gyeonggi-do, Korea

## ・ Asan Plant

Chungcheongnam-do

## Hallim Machinery Co., Ltd. .... 16 ◆

## ・ Main Office &amp; Plant

Gyeonggi-do, Korea

## ・ Other offices

Busan, Daegu, Daejeon, Gwangju,

Seoul

## Daifuku (Malaysia) Sdn. Bhd. .... ● ■

Selangor D.E., Malaysia

## BCS Integration Solutions

## Sdn. Bhd. .... 17 ♠

## ・ Main Office

Kuala Lumpur, Malaysia

## ・ Factory

Negeri Sembilan

## Daifuku Oceania Limited ..... ● ♠

## ・ Main Office: Auckland, NZ

## ・ Other offices

Australia, Canada, Malaysia

## Daifuku Mechatronics (Singapore)

## Pte. Ltd. .... ● ▲

Techplace 1, Singapore

## Singapore Contec Pte. Ltd. .... ♣

Techplace 1, Singapore

## 台灣大福高科技設備股份

## 有限公司 ..... 18 ● ▲

## ・ 本社・工場: 台湾・台南

## ・ 支社: 新竹

## ・ 工場: 台中

## 台灣康泰克股份有限公司 ..... 19 ♣

台湾・新北

## Daifuku (Thailand) Limited ..... 20 ● ■

## ・ Main Office &amp; Plant (Pinthong)

Chonburi, Thailand

## ・ Bangkok Office: Bangkok

## ・ Chonburi Plant: Chonburi

## Daifuku Intralogistics Vietnam

## Company Limited ..... ●

## ・ Main Office: Ho Chi Minh City, Vietnam

## ・ Hanoi Office: Hanoi

ダイフクグループのウェブサイトでは、財務・非財務情報を公開しています。(下表)  
www.daifuku.com/jp

IR情報

www.daifuku.com/jp/ir

コーポレートガバナンス

www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance

サステナビリティ

www.daifuku.com/jp/sustainability

| 区分       | 名称             | 言語 |   |
|----------|----------------|----|---|
|          |                | 日  | 英 |
| 会社情報     | 会社案内           | ✓  | ✓ |
| サステナビリティ | サステナビリティ報告     | ✓  | ✓ |
| IR情報     | 決算短信/決算説明会資料   | ✓  | ✓ |
|          | 有価証券報告書        | ✓  | ✓ |
|          | 株主総会招集通知       | ✓  | ✓ |
|          | 株主通信           | ✓  |   |
|          | ダイフレポート(統合報告書) | ✓  | ✓ |



| 区分          | 名称                              | 言語 |   |
|-------------|---------------------------------|----|---|
|             |                                 | 日  | 英 |
| コーポレートガバナンス | コーポレートガバナンス報告書                  | ✓  | ✓ |
|             | ダイフクグループ コーポレートガバナンスに対する基本方針    | ✓  | ✓ |
|             | コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況 | ✓  | ✓ |
|             |                                 |    |   |

株主総会招集通知



ダイフレポート



サステナビリティ報告



業界情報

ダイフクが加入する主な団体

|                                                        |                      |
|--------------------------------------------------------|----------------------|
| 日本物流システム機器協会 (JIMH)                                    | www.jimh.or.jp       |
| 日本ロジスティクスシステム協会 (JILS)                                 | www1.logistics.or.jp |
| ・ 年に一度「物流システム機器生産出荷統計」を調査公表しています。(本統計は、輸入品やサービスを含みません) |                      |

世界最大級のマテハン・ロジスティクス体験型総合展示場「日に新た館」。自社で開発・製造した最先端のマテハンシステムのほか、ロジスティクス関連企業の製品も展示しています。

1994年に開館。これまで、世界約90の国と地域から延べ約54万人のお客さまにご来館いただいています。最新システム・機器の大規模な入れ替えを行い、2022年6月にリニューアルオープンしました。

専任スタッフが製品の機能・特長のほか、納入事例や現場での活用方法などをご紹介します(日本語、英語、中国語、韓国語に対応)。

# 日に新た館

〒529-1692

滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225

ダイフク滋賀事業所内

アクセス

JR米原駅、JR近江八幡駅から  
シャトルバス(要予約)



施設概要

- ・ 建物面積 6,049m<sup>2</sup>
- ・ 延べ床面積 1万9,482m<sup>2</sup>
- ・ 開館日 月～金曜日(祝祭日を除く)
- ・ 開館時間 AM9:00～PM4:30
- ・ 見学時間 AM9:50～PM3:15(時間帯によるコース制)  
(注)開館日、開館時間、見学時間は変更になる場合があります。
- ・ お申込み ウェブサイトをご利用ください(完全予約制)。  
www.daifuku.com/jp/showroom/hinimaratkan  
(注)会社・団体を対象とした展示場のため、個人、同業者の来館はご遠慮いただいています。



小学校の社会科見学先としても採用いただいています。

